

令和 5 年 5 月 21 日現在

機関番号：12601

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2020～2022

課題番号：20K21919

研究課題名（和文）製本術の工程分析に関する基礎的研究：東京大学所蔵「英国書史関係集書」を対象として

研究課題名（英文）Basic Research on Bookbinding Process Analyzing the Eikokushoshi Collection of the University of Tokyo

研究代表者

野村 悠里 (Nomura, Yuri)

東京大学・大学院人文社会系研究科（文学部）・准教授

研究者番号：70770288

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：東京帝国大学は、1923年の関東大震災によって図書館の蔵書の大半を焼失した。「英国書史関係集書」は1929年に英国政府から寄贈された貴重書である。コレクションは15世紀後半から20世紀初頭の書物の歴史を伝える文献である。本研究では書物の文化的意義を検討するべく、四世紀以上に渡ってどのように装幀が制作されたのか、製本構造の調査に取り組んだ。調査においては、検索のできるデータベースを作成した。コレクションの選定基準が明らかになり、著名な製本職人や製本工房の作品が多数含まれていることを発見できたことは本研究の大きな成果である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「英国書史関係集書」は15世紀後半から20世紀初頭の書物の歴史と文化を伝える選書で、163点のタイトル数から構成される。寄贈のときから既に百年が経過しているが、震災復興のシンボルである。図書館再建の歴史を次世代に伝えていくためにも、本研究の成果が果たす学術的・社会的意義は高い。これまでの製本史研究では、表紙のデザインや紋章本による旧所蔵者の特定が重視され、分析対象は限定されてきた。本研究では、書物の構造的特徴や職人の技術を分析し、製本史上の重要性をコレクション単位で明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The Tokyo Imperial University lost most of the library collections in fire disaster caused by the Great Kanto Earthquake of 1923. Eikokushoshi Collection is one of the University's rare books selections donated by the British Government in 1929. The collection illustrates the history of English books from the late 15th to the early 20th century. Focusing on the cultural significance of book production, the present study investigates the bookbinding structures to look at how bindings have developed over four centuries. Bookbinding database is created for the investigation. The study identifies the basis of criteria for book selections at that time, and reveals that the collection contains many works by famous bookbinders and binding workshops.

研究分野：製本史

キーワード：東京帝国大学 英国書史関係集書 関東大震災 製本 装幀 技術 工程 職人

1. 研究開始当初の背景

東京大学所蔵「英国書史関係集書」は、関東大震災の復興支援として1929(昭和4)年に英国政府から寄贈されたコレクションである。1923(大正12)年の震災によって東京帝国大学附属図書館の建物は崩落し、火災によって全焼した。旧幕時代より受け継いでいた蔵書の大半を焼失し、その数は70万冊以上と言われる。寄贈されたコレクションは英国印刷史をたどるための重要な文献とされてきたが、製本史における位置づけは明らかにされていない。

蔵書を失った甚大な被災状況を考えれば、書物の歴史を伝える総合的資料として選定されており、実物を継承したことに文化的かつ学術的意義があったであろう。本研究は『東京帝国大学附属図書館復興帖』(同大学編、1930年)、『東京帝国大学五十年史』(同大学編、1932年)徳永聡子著「東京大学附属図書館所蔵のイギリス初期刊本」(『慶応義塾大学日吉紀要英語英米文学』、2010年)等の先行する研究を踏まえながら、図書館復興の歴史を調査するとともに「英国書史関係集書」の全体像の把握と製本調査を行うことを企図した。

2. 研究の目的

震災から数年後、東京帝国大学附属図書館は竣工し、世界各国の復興支援のもと寄贈図書が集まった。1929(昭和4)年には「英国書史関係集書」の発送に先立ち、ロンドンではチェンバレン外務大臣から松平駐英大使に贈呈する式典が外務省で行われ、書誌情報を目録化したExhibition of Books(London, 1929)も刊行された。その後も附属図書館において「イギリス印刷史展覧会」が企画され、図書館再建のシンボリック的役割を果たしてきた。本研究では、復興の歴史とコレクション受入を調査するとともに、「英国書史関係集書」の構成と選定理由、さらには目録化された163点について製本の構造的調査を行うことを目標とした。

従来の製本史研究では、表紙のデザインや紋章本による旧所蔵者の特定が重視され、書物の構造的な特徴や職人の技術については十分に検討されてこなかった。本研究ではこれまで見落とされてきた「英国書史関係集書」の製本史上の重要性に着眼し、コレクションの実物調査を行う。詳細に装幀を調査し、本の綴じ方をはじめとして表紙で包まれると分からなくなる内部構造の情報を、職人の技術と技法から検討することを目的としている。寄贈されたコレクションは、イギリスにおいて四世紀以上に渡って受け継がれ、書物の歴史と文化を伝える貴重な資料である。実際にどのような製本工程で作られたのか、その製本術を明らかにするためのデータ収集を行うことが目的である。

3. 研究の方法

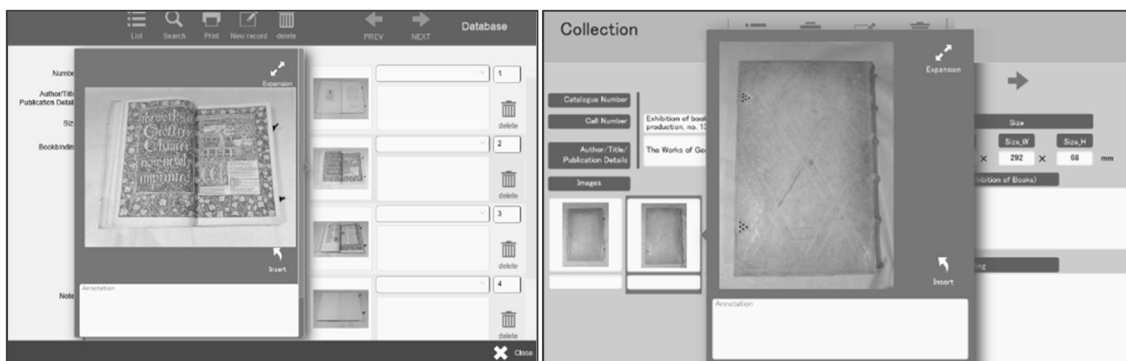
「英国書史関係集書」はExhibition of Booksの目録によれば163点からなる。15世紀Caxtonのファクシミリにはじまり、1927年に出版されたShelley詩集、St. Francisの小さき花、Dampierの旅行記、イギリス古代の宗教詩に至るまで、何世紀にもわたる出版物が含まれる。書物の印刷年は製本年代とは一致せず別個に特定する必要があるが、調査は出版年代を遡る方法で実施した。163はタイトル数で複数巻を含む場合もあるが、20世紀は24点、19世紀は44点、18世紀は24点、17世紀は27点、16世紀は31点、15世紀末は13点である。

初年度はコレクション全体の保存状態を確認しながら、20世紀初頭から19世紀初頭の出版物について調査を行った。この中には式典でチェンバレン外務大臣が贈呈し、コレクションの象徴的シンボルとなった T.J. Cobden-Sanderson の製本工房による『チョーサー作品集』(W. Morris 出版、1896年)も含まれる。総合図書館貴重書室で画像撮影を実施し、68点のコレクションについて製本術の工程について分析を進めた。

第二年度も同様に18世紀から17世紀に出版年代を遡るかたちで、18世紀末の William Blake の挿絵本にはじまり、17世紀初頭に刊行された Drayton 詩集やローマ史文献に至るまで51点の調査を実施した。調査内容については分析をしやすいように、写真画像を整理したうえでデータベースの作成を進めた。最終年度においても、16世紀および15世紀についてコレクションの調査を継続した。研究期間を通じて、「英国書史関係集書」の受入経緯について大学史料の蒐集を行っている。

4. 研究成果

計画当初で想定していたよりも調査は長期に渡ったが、全てのコレクションについて、書誌情報ならびに製本構造に関するデータを収集することができた。第二年度以降は、「英国書史関係集書」の調査と並行して、コレクションのデータベース作成を進めた。



作成中のブックバインディング・データベース(左2022、右2021)

『チョーサー作品集』、画像：東京大学総合図書館所蔵資料

調査においては、とりわけ以下の14項目についてデータ収集を行った。折丁、目引き穴、支持体、かがり、背の裏打ち、ボードの裏打ち、ボードと支持体の接続、小口、花布、見返し、表紙、背表紙、箔押し、タイトル活字である。複合的な分析が必要とされるため、データベース上でどのように検索機能をつけるかが課題となった。項目と検索機能を充実させることで複数本や巻揃いの分析が容易になり、製本情報について横断的な検索も可能になった。今回の調査によって、著名な製本職人や製本工房の作品が多数含まれていることを発見できたことは本研究の大きな成果である。

寄贈のときから既に百年が経過しているが、多くの本には再製本の跡が見られる。詳細な記録と分析をすることは、今後の保存修復の必要性が生じた際の情報としても貢献できるであろう。本研究の調査によって、コレクションが製本史上においても重要であることが明らかになり、選定基準に製本の種類と制作者さらには修復時期が寄与していることが解明できた。今後の発展的課題としてはデータベースの分析をさらに進め、「英国書史関係集書」についてコレクションの文化的継承の意義を問う書籍の刊行を行う予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 野村悠里	4. 巻 23(1)
2. 論文標題 本の技術と歴史を伝えるビブリオテカ・ウィトキアーナ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 技術史教育学会誌	6. 最初と最後の頁 54 56
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村悠里	4. 巻 23(2)
2. 論文標題 書物の余白から：ウィリアム・モリス・ギャラリー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 技術史教育学会誌	6. 最初と最後の頁 41 43
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 野村悠里	4. 巻 34号
2. 論文標題 マイケル・ファラデーと製本術	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京大学文学部次世代人文学開発センター研究紀要 文化交流研究	6. 最初と最後の頁 79-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 1件／うち国際学会 0件）

1. 発表者名 野村悠里
2. 発表標題 文化資源としての製本：ファラデーと製本術
3. 学会等名 東京大学文化交流茶話会（招待講演）
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 野村悠里	4. 発行年 2021年
2. 出版社 新曜社	5. 総ページ数 19
3. 書名 東京大学文化資源学研究室編『文化資源学 文化の発見かたと育てかた』第9章	

〔産業財産権〕

〔その他〕

野村悠里、科研報告書CD-ROM版「英国書史関係集書データベースの作成と分析」（文化資源学研究室、2023年）

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------